

～阪神・淡路大震災の経験を、人と動物の幸せな未来へ～

第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議 2015

— 阪神・淡路大震災 20年記念大会 One World, One Life —



報道関係者各位

2015年6月8日
ICAC KOBE (アイカック神戸) 2015 事務局

プレスリリース

阪神・淡路大震災から20年となる節目の年に、ICAC KOBE 阪神・淡路大震災 20年記念大会 実行委員会主催による「第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議 2015 (ICAC KOBE 2015) — 阪神・淡路大震災 20年記念大会 One World, One Life — (参加無料/要参加登録)」を開催いたします。より多くの皆様にご参加頂くために、貴媒体での告知および取材のお願いを致します。

名 称：りぶ・らぶ・あにまらず ICAC KOBE 2015

第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議 2015

— 阪神・淡路大震災 20年記念大会 One World, One Life —

開催日時：2015年7月19日(日) 10:00~20:30 / 20日(月・祝) 10:00~17:30【2日間】

開催場所：神戸大学統合研究拠点(国際会議) / 神戸ポートピアホテル(レセプション)

開催趣旨：— One World, One Life —

「お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』に暮らすこと。それが、いのちに対する『責任』である。」

阪神・淡路大震災から20年が経ちます。大きな災害は、ごく普通の日常が、どんなに脆く、大切で、守らねばならないものかを教えてくれました。それは、どんな生き物にとっても同じでした。

また、生き物の暮らしを襲う危機は、大きな災害だけではなく、老いや疾病、事故や戦争、貧困と、様々な要因で私達を襲います。それに対し、社会は、高度な専門性を以て、対処してきました。

世界はグローバル化し、地球は小さくなりました。私達は、今や世界との繋がり無しに、自分達の生活を考えることは出来ません。そして今、様々な課題解決の為に、分野を越えた連携も広く求められています。

生きとし生けるものが、この地球上で幸せに暮らせる社会にしていく為、様々な専門分野の連携のもと、私達人間に出来ることを幅広く議論する場を提供し、「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく」— One World, One Life — 概念構築の第一歩と致します。

主 催：ICAC KOBE 阪神・淡路大震災 20年記念大会 実行委員会

(神戸市/兵庫県動物愛護センター/公立大学法人 大阪府立大学 獣医学類/公益社団法人 日本動物病院協会/
公益社団法人 日本動物福祉協会/公益社団法人 Knots (事務局))

共 催：公益社団法人 日本医師会/近畿地区連合獣医師会/神戸市動物愛護協会

特別協賛： 日本ヒルズ・コルゲート株式会社

シンポジウム支援企業：ロイヤルカナンジャパン

会議支援企業及び団体：アサヒグループホールディングス株式会社/六甲山カンツリーハウス/

DS ファーマアニマルヘルス株式会社/ペットライン株式会社/ au 損害保険株式会社

後 援：農林水産省/環境省/厚生労働省/文部科学省/兵庫県/兵庫県教育委員会/神戸市教育委員会/神戸大学統合研究拠点/公益社団法人 日本獣医師会/一般社団法人 兵庫県医師会/一般社団法人 兵庫県獣医師会/公益社団法人 神戸市獣医師会/一般社団法人 神戸市医師会/一般財団法人 J-HANBS /公益財団法人 日本動物愛護協会/公益社団法人 日本愛玩動物協会

詳細は公式ウェブサイトをご参照下さい

 第4回国際会議2015 検索

http://knots.or.jp/corporation/2014/10/icac-kobe2015_outline/

基調 シンポ ジウム

「阪神・淡路大震災の経験を 人と動物の幸せな未来へ — 護るべき大切な日常とは？」

阪神・淡路大震災から 20 年が過ぎた。私たちが震災から学んだもの、それは、「日常」の大切さである。しかし、現在の社会の「日常」は、高齢化・単身化・少子化・グローバル化等により、これまでにない様々な課題を抱えている。IT 等の技術の進歩により、情報や人のつながりの多様化・効率化・高速化が進むようになったものの、そのことが逆に孤独や社会的疎外感を導き、また社会からうける過度のストレスに悩む人は増えるばかり。「ヒトは動物であり、自然の一部である」と

いう「人」の本来の姿を模索し、それに似合った日常の過ごし方を目指す時が来ていることを、誰もが漠然と感じているのではないだろうか。私たちが守ろうとしている自然の中の「幸せな日常」とはどのようなものであるべきか。震災から 20 年の月日を重ねた今だからこそ、もう一度「生き物としてのヒト」という出発点に立ち返って考察を進め、ヒトを含む動物の幸せな未来へ向けての礎を再構築出来たらと願う。それが、阪神・淡路大震災 20 年への私たちの貢献であり、希望である。

7 月 19 日 (日) 10:00 ~ 13:30

● 座長：位田 隆一氏 (京都大学 名誉教授／同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 特別客員教授／同志社大学生命倫理ガバナンス研究センター長／公益財団法人 国際高等研究所 副所長)

● 演者：

1. 「ヒト・動物・自然の新たな公共性の模索 — 文化比較の視点から」
小原 克博氏 (同志社大学 神学部 教授／良心学研究センター センター長)

2. 「家族愛の脳科学」
篠原 一之氏 (長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科神経機能学 教授／医学博士)

3. 「常に変化し続ける生命の柔軟な営みに学ぶ」
森本 素子氏 (宮城大学 食産業学部 教授／獣医師)



▲ 第 3 回大会基調講演の様子 (オープニングでは、阪神・淡路大震災で犠牲になった人と動物の慰霊のために黙祷を捧げています)

会議アドバイザー

ICAC KOBE 2015 は、ヒト医療・理学系・文系の有識者の皆様のアドバイスを頂きながら、プログラムの内容を構築しています。

- ・ 竹内 勤氏 (慶應義塾大学 名誉教授／慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 客員上席研究員)
- ・ 松沢 哲郎氏 (京都大学 霊長類研究所 教授／公益財団法人 日本モンキーセンター 所長)
- ・ 奥野 卓司氏 (関西学院大学 総合図書館長・社会学部 教授／放送大学大学院客員教授／山階鳥類研究所 特任研究員)

分科 シンポジウム

分科シンポジウムとして、人も動物も幸せに共生できる社会の実現をテーマとした5つのシンポジウムが開催されます。

■シンポジウム 1

「同行避難～これからの人と動物の緊急災害時」 7月19日(日) 14:30～17:30 会場:コンベンションホール

■シンポジウム 2

「最近問題となった人と動物の共通感染症」 7月20日(月) 10:00～13:00 会場:コンベンションホール

■シンポジウム 3

「災害に強い日本型畜産の構築のために」 7月20日(月) 10:00～13:00 会場:ラウンジ

■シンポジウム 4

「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム 7月20日(月) 14:00～17:00 会場:コンベンションホール
—伴侶(家庭)動物との暮らしを地域活性へ」

■シンポジウム 5

「日本の災害獣医療の今後を考える」 7月20日(月) 14:00～17:00 会場:ラウンジ

オーラル セッション

国内外 15 組が参加《カリフォルニア大学デービス校(アメリカ) / デンバー大学(アメリカ) / イースタン・アジア大学(タイ) / 金沢大学 / 帝京科学大学 / ACTAsis / 世界小動物獣医師会アジア地区 / 那須どうぶつ王国 / 県立コウノトリの郷公園 / 奈良県うだ・アニマルパーク振興室 / 環境人間学博士人とペットの共生環境研究所 / プロジェクトとっかり》

■ 1) 「食の安全 / 人獣共通感染症」

日時: 7月19日(日) 14:30～17:30 会場: セミナー室 運営協力: 公益社団法人日本獣医学会

■ 2) 「One Plan Approach ～野生動物と共存していくための包括的な取り組み」

日時: 7月19日(日) 14:30～17:30 会場: ラウンジ 運営協力: 日本野生動物医学会

■ 3) 「教育 / 子ども達との関わり」

日時: 7月20日(月・祝) 14:00～17:00 会場: セミナー室 運営: 実行委員会

■ 4) 「その他」

日時: 7月20日(月・祝) 14:00～17:00 会場: セミナー室 運営: 実行委員会

ポスター セッション

国内 12 組が参加《金沢大学 / 大阪府立大学 / 兵庫県動物愛護センター三木支所 / 兵庫県立大学 / 北須磨動物病院》

《取材に関するお問合せ先》

ICAC KOBE (アイカック神戸) 2015 事務局

〒658-0047 兵庫県神戸市東灘区御影3丁目2番11-20 (公益社団法人 Knots 内 / 担当: 白川)

TEL: 078-843-8970 (月～金曜日 9:00～17:00) FAX: 050-3730-0738 (国内線用)